

講演議題「草の根事業の持続性に関する考察」

講演者:田中秀幸 JECK会員((株)国際水産技術開発勤務)

大洋州の島嶼国の内、人口が多く、また資源的に最も恵まれているメラネシア地域は現在、政治・経済ともに混沌とした状況にある。多額な援助資金にも拘らず、独立後の希望に満ちた国作りに挫折し、争乱化していった1980年から90年代のアフリカと酷似しており、メラネシアはまさに「アフリカ化」ともいえる現象が起きている。この原因の一つはアフリカでもそうであったように援助の失敗である。特に日本は要請ベースにこだわるあまり、離島振興、地方開発への支援を避けてきた嫌いがある。

現在JICAは草の根支援を強化促進しつつあるが、この根拠については国民にまだ明らかにしていないように思われる。しかし、草の根支援は要請ベースではなく、日本発の提言で推進する形をとっており、JICAとしては新しい挑戦であり、まさに国作りに失敗してきた途上国向けの新たなアプローチともいえるのではないだろうか。しかしながらJICAとして草の根をどのように体系づけているのか不明瞭である。

JECKは水産増養殖の専門家集団と、フィジーにおいて沿岸資源管理の手段として水産業の多様化を計るべく、未利用資源魚種の養殖開発パイロット事業を提案し、JICA草の根プロジェクトとして発足させた。南太平洋諸島の沿岸水産資源は国民の食糧源としてまた経済開発資源として重要であるが、沿岸資源はどこも乱獲状態にある。丁度1970年代の沖縄と類似した状況とも言える。

開発能力が脆弱なミニ島嶼国としては沿岸資源の保全に有効な施策を打ち出せず、有用資源の減少に歯止めをかけられずにいる。本草の根は沖縄の教訓を基にした日本発の提案である。

コミュニティー主導による草の根事業の最大の課題は持続

性である。しかし、この点に関してはJICAはあくまでも実施団体の主体性に任せている。ガイドラインの提示が望まれる。

最近、JICAは貧困対策としてBOP(Base of the Pyramid)ビジネス支援のあり方を模索し始めている。草の根の対象は貧困村落であり、まさにBOPビジネスのターゲットグループでもある。草の根事業、特に生産性を基軸とした事業の持続性を確立するには村落内にビジネス意識に基づいた経営管理体制、つまり村営企業を設立させることではないだろうか。BOPビジネスと草の根事業を一体化したガイドラインの作成は急務であろう。現在JICAは国作りに失敗してきたアフリカへの支援に焦点を当てているが、もしJICAがODA実践者の声を聞く耳を持つのであれば、身近な太平洋において「アフリカ化」しつつあるメラネシア地域に対しても日本発の提案型支援を積極的に推進していただきたいと考えている。



日本での生活と日本の印象

海外での生活は初めてで、JECKの推薦で県の技術研修員に採用され、相鉄線の二俣川から徒歩約20分の県の国際研修センターに宿泊して、横浜国立大学の藤江先生の研究室に通って基礎技術の研修を受けています。

毎朝6時に起きて、パソコンのTV電話で時差14時間のエクアドルにいる両親や兄と近況を話し合っています。朝食はパンと牛乳、8時に宿舎を出て40分かけて大学へ行き、9時から16時まで研究室で過ごし、昼食は学食、夕食は自炊しています。ご飯は大好きで、日本のお米はとても美味しいです。エクアドルでは水にオイルを入れて炊くので、日本のように水だけで炊くのは初めてでした。エクアドルの人は魚を良く食べますが、生では食べません。でも日本に来てワサビと醤油をつけて食べる刺身や鮭は大好きになりました。酒は日本酒の熱燗が好きですが焼酎も飲みます。

大学の研究室の忘年会が12時過ぎに終わりになったのは以外でした。エクアドルでは食べて、飲んで、踊って午前2時ごろまで賑やかに過ごします。日本ではタクシー代が高いから早く終わるのかと思いました。

日本の漫画、アニメーション、車そして技術は素晴らしいと感じました。航空機、列車、電車、バスの発着時間の正確さや時間の管理が「スゴイ」と思いました。エクアドルでは友達と待ち合わせしても、1時間半くらい遅れてもOKです。大学には色々な企業が企業紹介のパンフレットを持って来て、教授が就職先を紹介

神奈川県海外技術研修員 フェルナンド・ディアス

介してくれますが、私の国では学生が自分で就職先を探さなくてはなりません。日本の学生は恵まれていると思います。

エクアドルは赤道直下にある南米の国で人口は1,300万人、面積は日本の約2/3です。在留邦人は2008年10月現在573人です。

私の住んでいるキト市は海拔2,850mにあります。日本人はキトには余りいませんが、南西部にあるグアヤキルという港町は人口がキトより多く、日本人も大勢住んでいます。パナソニック、ソニー、日産、トヨタなどの日本の工業製品は人気がありますが、生産工場はありません。日本から航空機の直行便は無く、成田からアトランタまで12時間、アトランタからキトまで8時間、乗り継ぎ時間を入れると約22時間掛かります。またキトには日本語の講座がある大学が3校あって、日本で日本語を学んだエクアドル人の教師と日本人女性の教授が日本語と日本の文化を教えています。

日本のレストランで修行したシェフが日本料理店を開いています。食べ物は魚、貝、エビ、鶏肉、ジャガイモが美味しいです。エクアドルは海岸地域、アマゾン地域、アンデス山脈地域、ガラパゴス諸島の4つの地域に分かれていて、ジャングルやガラパゴスを巡るツアーに人気があります。海岸の砂浜はとても綺麗で、一年中泳ぐ事ができます。是非一度、エクアドルに遊びに来てください。日本を好きなエクアドル人が皆で歓迎致します。